

1

(2・3・10 各完答)

1 獣医師  
2 A ウ  
3 B ア  
4 C 工

3 飼 い  
4 ウ  
5 皿  
6 ア  
7 工

8 ウ  
9 ウ  
10 客 する

11 a 一見  
b 根本  
c 仕草(仕種)

d 意味

2

(5X・5Y 各完答)

1 a 理由  
b 勝手  
c 遠 のく

2 日都子  
3 合唱委員  
4 (記述題)

5 X 参 った  
Y イ た  
6 A ア

7 なんてこんな目  
8 ア  
9 ウ

10 バスパート  
11 イ

2

4

け	ら	さ	余
た	せ	ら	計
い	て	に	な
と	し	片	こ
思	ま	岡	と
っ	う	さ	を
た	こ	ん	言
	と	を	っ
	は	お	て
	さ	こ	、

(同意可)

配点	
11	21 各2点× 7=14点
24	6点
その他	各4点×20=80点
100点	

- 1 筆者がどのような立場から文章を書いているのかをつかむことで、全体がつかみやすくなる。「医者」「獣医」といったことばはすぐにみ分かるが、これらと同じような意味の三字のことばをさらにさがす必要があった。
- 2 (A)は直前の一文に対しての理由が直後で書かれているので「なぜなら」が入る。(B)は直後で「よくない病気」の具体例が示されているので「たとえば」が入る。(C)は直前の「つい吐き気を…」という考えのまま進めてはいけないという流れになっているので、「でも」が入る。
- 3 傍線を含む一文を読もう。「ペットの腹痛や頭痛」はペットのものであって、「飼い主さん」が感じるわけではないのである。一つ前の段落から「主訴」についての話題が続いていたことにも注目すれば、「認識」というキーワードだけでさがすよりも効率よく答えにたどりつけるだろう。
- 4 傍線を含む一文を読むと、「たとえば」ということばがあることから「水をよく飲む」ということは何かの具体例であることに気づけるだろう。さらに一文前を読むと、「動物では…ならない」という部分にたどりつける。選択肢にまどわされないように注意しよう。
- 5 「食欲がなくて全然食べない」イヌは、実はおやつばかり食べていただけだった、ということが、IⅢを含む段落で説明されていた。「いつもはフードを食べさせていた」イヌがフードに飽きてきたので代わりにおやつを食べさせた→ますますフードを食べなくなつた」という流れである。
- 6 問5の一連の流れを、飼い主さんは「全然食べない」の一言で獣医師である筆者に伝えたのである。そのため筆者は根本的な原因にたどりつくまで悩むことになってしまったのである。
- 7 「こつちの説明」とは、筆者から飼い主さんへの説明のことである。「ネコ」の様子を、獣医師が飼い主に対してどのように伝えるのかを考え、落ち着いて選択肢を見比べれば容易であつただろう。
- 8 「だれが(何が)」注射を打つのか、と考えよう。主語が省略された文は多いので、普段から主語については意識を向けて文章を読み進めてほしい。
- 9 ⑦を含む一文を読むと、「事件の聞き取り捜査をする」⑦「みたい」にあつた。飼い主から客観的な情報を得ようとする獣医師を、捜査をすすめる刑事にたとえているのである。
- 10 傍線を含む一文を読むと「繰り返しになるが」とあつたことに注目したい。どのように「話を聞き取る」、つまり「問診する」能力なのかと考えてさがしていくと、一つ前の段落の「正しい問診では…」という説明が見つかるだろう。なお、「捜査をする」は比喩表現であるため、設問の「具体的に…」という指示に対して不適当な答えとなる。
- 11 aは「見」をうっかり「件」などの同音異字にしないように気をつけよう。dの「意」はしたところを正しく書けているか。aとdは小学三年生までに習う漢字から出題している。文脈にそって正しい漢字を書けるようにしておいてほしい。
- ②
- 1 b「勝」は右側の字形や横棒の数に気をつけよう。c「遠」は七〜十画目の字形を正しく書けているだろうか。また、字形だけではなくことばの意味・用法ともに覚えていくようにしておこう。こちらのaとcも1問1問同様、小学三年生までに習う漢字から出題している。小学五年以降に習う漢字をスムーズに身につけていくためにも、間違えた漢字はしっかりと覚えなおしてほしい。
- 2 物語文においては、この文章のように登場人物の視点で描かれることがある。また、場面ごとに視点人物が変わるような文章も存在するので、どのような視点で書かれている文章なのかは普段から気を配ってもらいたい。なお、登場人物のうちはっきりと名前が出てくる者の中で、「日都子」にだけ「君・さん(ちゃん)」がついていなかったことには気づいただろうか。
- 3 通読時に、なぜここまで「片岡さん」が他の登場人物よりも「イライラ」しているのかと疑問を持って読み進めていけば、「同じ合唱委員の堀越君」というところにさしかかった時にピンときたのではないだろうか。
- 4 「片岡さん」が欠席者の名前を確認したときに、「女子生徒」は練習を欠席している「真希ちゃん」に何かしらの害がおよぶかも知れない、と考えてフォローを入れたのである。ところがそのせいで「片岡さん」のイライラがさらに増すかも知れないと感じ、慌ててそれ以上はしゃべらないように黙つたのである。「自分に怒りの矛先が向いてしまうことを恐れた」という形でまとめていてもよいだろう。指定語句を使うことや、前後のつながりにも気をつけて答えを作ろう。
- 5 「最悪の空気」の原因は「片岡さん」である。なぜ彼女がこのような空気を生み出してしまったのかを考えてほしい。
- 6 それぞれの場面をイメージして答えよう。Aの直後、「仁王立ち」とは力強い様相で立つ様子をさしていることばなのでここに「膝」は使えない。また、三行後に「再び腕を組む」とあつた。Bについて、「腰を下ろし」た状態で「顔を埋め」るのは「腕」・「膝」のいずれかだが、「腕」はAに入るので「膝」で決まる。Cは「悲痛な声」に注目すれば「喉」で決まるだろう。
- 7 登場人物の心情は表情や様子、セリフなどに表れる。「柏葉さん」の心情をおさえるため、彼女のことを書かれた部分をたどっていこう。
- 8 直後の段落に、これまでも同じようなことがあつたということが書かれていた。クラスメイト達は、どうせいつもどおり誰かが迎えに行き、いつもどおり片岡さんが戻り、練習が再開されるだろうと考えているのである。
- 9 教室内の重苦しい雰囲気イメージとしてつかめていたならば、その雰囲気と練習対象である『心の瞳』の歌詞内容とが全くかみ合わないことに気づけるだろう。「何が『絆』だ」「何が『変わらない』だ」と、吐き捨てるように書かれていることにも注目することでア・エは誤りだとわかる。また、ここで「日都子」が「もうしわけなさ」を感じ理由がないのでイも誤りである。
- 10 通読時に「バスパートのあたりからそんな声が…」と書かれていたことに違和感を覚えてほしい。指示内容が文中には存在しなかつた。文中の指示語がどこを指し示しているのかは、いかなる文章においても注意をはらって読み進めてもらいたい。
- 11 不適当なものを選ぶことに注意しよう。イは「いつもどおり音楽室を借りて」というところがおかしい。——線②の一行後に、「今日は音楽室での練習ではない」と書かれていたし、「いつも」借りているとは言えないだろう。